

JICA九州ネット
jqn

創刊号

大分の高校生考える！

「なぜ問題は解決しないのか？」

シリアと日本の小学生話す！

福岡県前原市立波多江小学校の出来事

新協力隊員不定期連載企画

つつんトンガへ行く！

青年海外協力隊・シニア海外ボランティア

募集説明会があなたの街へ

巻頭インタビュー

つたわる・つながる・ひろがる

福岡市国際協力推進員の新たな挑戦！

稲森千佳

福岡市国際協力推進員

新しく福岡市の国際協力推進員になった稲森千佳さんをご紹介します。理工学部の建築家志望から青年海外協力隊に参加、タンザニアでの理数科教師活動を経て国際協力推進員になった異色の経歴の持ち主です。稲森さんはなぜ建築家になるために勉強していたのに海外ボランティアに参加したのでしょうか？そのキッカケは大学三年生の時に訪れたタイにあったようです。

稲森： タイで見たのは焼けるようなアスファルトの上で子供を抱いた女性や体の不自由な人達が物乞いをする姿です。彼らの前には紙コップが置かれていて、たくさんの外国人旅行者がそこにお金を投げ込んでいましたが、私にはできませんでした。その時、なぜ自分にはできないのかわかりませんでした。今は少し分かるような気がします。お金を施すことは、不遇な人々を見下す行為だと思い込んでいたのです。そして私はそのような行為をする人間ではない、そんな人だと思われたくないと感じていました。今思えば、それは自己中心的な発想でした。そこに座っている人々が何を望んでいるのか、何があれば一日を過ごすことができるのか考えてはいませんでした。その時、私が何を思ったとしても彼らには関係ないのです。彼らは必死なのですから。

タイでの経験は海外ボランティア参加とどのように結びついていったのでしょうか？その後の彼女の心境の変化を聞きました。

稲森： とにかく、知らないことが多過ぎると感じました。実際の状況を知ること。私は、そのために伝えることをし、色々なものを見て、色々なことを知り、自分にできることをしたいと思いました。

知らないことが多過ぎるという実感は稲森さんを実際の行動へと導きます。彼女は青年海外協力隊員としてタンザニアへと赴任し、実際に支援活動に参加したのです。タンザニアでの活動はどうだったのでしょうか？彼女なりに満足いくものだったのでしょうか？

稲森： 私は、タンザニアでの自分の活動に満足していません。今、私ができることを私のやり方でやりたいと強く思っているのは、タンザニアで自分がしてしまった数々の失礼や、謝りたいことが沢山あるからです。自分が外国人ということで甘えていたところや、タンザニアの人々と対等な関係を築けない雰囲気を自らつくっていたかもしれないと、帰国後に気付いたことがたくさんありました。

「つたえる・つながる・ひろがる」これは彼女が現地活動への試行錯誤の中、見出したテーマです。そして、その後の活動でもキーワードとなったようです。

稲森： つたえる・つなげる・ひろげる というキーワードは協力隊員になってからいつも考えていたテーマです。伝えたいという気持ちから、つながって、ひろがってほしい、それが国際協力、国際交流ということなのかなと当時思っていました。

このキーワードのもと、彼女は今後、国際協力推進員としてどのように活動していきたいのでしょうか？抱負を聞いてみました。

稲森： 国際協力推進員としてチャンスをもたらした今、協力隊員として活動をする上でのテーマであった「つたえる・つなげる・ひろげる」から「つたわる・つながる・ひろがる」へ、というのが私の今の目標です。帰国後、自分の協力隊での体験を周りのたくさんの人達に伝えようとした時、自分の伝えたいことがうまく伝わらないと感じました。それは、日本の、異文化に対する考え方や、途上国やアフリカの情報が正確ではないからだと思うのです。イメージではなく、そこから、つたわる・つながる・ひろがる環境を創っていきたい。そして、日本の国際協力と国際貢献への意識を少しでも変化させることができればと考えています。

稲森推進員の今後の活躍に期待します。

■ 国際協力推進員

稲森さんと九州各地の国際協力推進員はどこに？

JICA九州ホームページへどうぞ

<http://www.jica.go.jp/kyushu/index.html>

つたわって
つながって
ひろがっていくメッセージ



自分なりに答えを出せ

たことは大きな経験となりました

「私の夢であるボランティアという分野で

自分をより成長させていきたい」

遅 来た秋が始まった頃、大分県のJICA窓口として働く国際協力推進員：椿大亮のもとをある高校生が訪れました。高校生は椿にこんな質問をぶつけてきました。「現地の活動員を増やしたほうがいいんじゃないですか？」いったいどういうことなのでしょう？

小坂高史君は大分東明高等学校国際コースの3年生、今年、大学生活をスタートさせます。彼は大学入試にあたり、AO入試レポート方式を選択しました。これは学科試験ではなく、事前に提出する論文をもとに合否を決定するシステムです。小坂君は以前から興味があったボランティア・支援といったことを課題とし、この試験制度に挑戦することにしました。その取材のために大分県文化スポーツ振興財団に派遣されている椿のもとを訪れたのです。小坂君に国際協力のレポート作成を通じて感じたことを聞きました。

「大学入試の際にAO入試レポート方式という制度があったので、以前から疑問に思っていた「なぜ途上国の諸問題はいつまでも解決しないのか」ということをレポートとしてまとめ、入試に挑戦してみようと考えました。このレポートの仮説を立てるにあたり、実際に国際協力機構(JICA)と財団法人オイスカ(OISCA)の二つの団体を自分なりに調べ、その検証に取り組むことにしました。まず初めに立てた仮説は、「物資の輸送や交渉などの事務的な作業を行うサポート人員に支援金の多くが使われ、教育や復興支援などを現地で行う活動員が不足しているために改善がおきているのではないか?」というものでした。仮説を立てたきっかけは、以前より興味があったボランティア関係のことを調べようとしていた時に、テレビや本で教師や医師などの専門家たちが現地で不足しているという事実を知り、これが原因で問題は改善されにくいのではないかと考えたことです。」

「現地スタッフが足りないのでは?」という仮説は、支援機関にとってはかなり挑戦的な課題です。しかし、このレポートの結論は仮説を実証するものにはならなかったようです。その決め手となったのはある疑問を解決するために集めた現地の事例だったようです。

「レポート作成のために色々調べたのですが、どのように文章を構成すればよいのか分からずに先生にアドバイスをいただいたり、JICA国際協力推進員の椿さんのお話を聞きました。特に仮説の実証の仕方が思い浮かばずに時間をかけてしまいました。そこで、「現地で不足していると感じるものは何か?」という疑問への現場の声を探すことにしました。そしてこの質問を青年海外協力隊への参加経験をもつ椿さんに聞きました」

**この質問に答えるため、椿はどんな話をしたのでしょう？
ここで少しだけ椿のエクアドルでの体験談をご紹介します。**

「青年海外協力隊の野球隊員として南米エクアドルに派遣された。ある地方都市にスポーツ連盟があり、そこではサッカーを始め15種目くらいのスポーツを教えている。その一つとして野球も存在し、僕はそのスポーツ連盟の一員として野球を教えていた。現地で活動目的は“野球をするひとの輪を広げること(野球人口の拡大)”と“エクアドルの人たちの野球が上手になること(野球の技術レベルの向上)”の2つ。ただし青年海外協力隊の活動では“隊員がいなくなった後も現地の人たちの手で活動が続いていくようにすること”が大前提としてある…。“現地の人々の手で活動が続いていく”ためにはこのスポーツ連盟の支援が必要だった。しかし、スポーツ連盟に関しては全くと言っていいほど野球への支援は行ってくれなかった。何度も何度も連盟のトップや関係者と交渉を重ねたが、結果は同じだった…。」

また、小坂君はリサーチの過程で読んだ本の中から次のような事例が印象に残ったようです。

「途上国に工場や高度な農具を提供したが、それらについて教える人が少なく、また技術移転するだけの環境が整っていないために持続的な支援とはならなかったという事例を見つけました。」



修学旅行でニュージーランドを訪れた小坂君(左)と現地の学生さん!?

この二つの事例や、レポート作成のために集めた多くの情報から小坂君は自分なりの結論を導き出しました。

「今回のレポート作成を通じて、事前の調整不足などのせいで支援先国の団体が自主的に活動の継続ができず、現場の人々がうまく支援できないケースがあることが、私が感じた「諸問題がいつまでも解決しない」ということの一因であることがわかりました。私が自分なりに出した結論は仮説とは異なるものでした。しかし、自分なりに答えを出せたことは大きな経験となりました。大学に入学後もこの経験を生かし、色々な疑問に対して答えを見つけていきたいです。そして、将来、私の夢であるボランティアという分野で自分をより成長させていきたいです。」

小坂君の将来に期待します。

- ・国際理解教育
- ・国際交流イベント
- ・青年海外協力隊
- ・シニア海外ボランティアなど、ぜひご相談ください。

大分国際協力推進員：椿と九州各県の推進員のお問合先は下記のアドレスへ!
<http://www.jica.go.jp/kyushu/index.html>

■ 最寄りのJICA窓口



シリアと九州・小学生を結ぶテレビ会議 ～あなたたちが大好きです～

初めての交流授業

今回の会議は、昨年8月にJICAの教師海外研修*1に参加された福井陽子先生の、「シリアで経験した驚き、気づきを少しでも子ども達に共有してもらいたい」、という思い、シリアに環境教育の指導を行うために派遣中の青年海外協力隊員の和気尚美さん、成山博子さんの、「シリアと日本の子どもたちが、自分たちの環境活動を紹介し合うことによって学び合い、環境について広い視野で考え、行動するようになってほしい」、という思いから実現したものです。

2月14日、福岡県の波多江小学校の138名とシリアのアーラーフ小学校の15名の6年生がJICAのテレビ会議システム*2を使って、お互いの国の歴史・文化、小学校で行っている環境活動について発表しあいました。

始めはお互いに少し緊張気味のようにでしたが、シリアの生徒から、日本のイメージは、日本人は勤勉で優しいという発表に対して、日本の生徒さんから、「シリアの子ども達は、学校や勉強することを大切に思っている人が多く、みんなの役に立つ人になるためにがんばっていてえらいと思う」、という発表がされるころには随分打ち解け合ったようです。

最後に波多江小学校のリコーダーによる「ふるさと」の演奏、アーラーフ小学校からは、学校の校歌を紹介し、アーラーフ小学校の生徒から日本語で、「あなたたちが好きです!」とメッセージがよせられ、「ヤッラ・バーイ(さようなら)」「さようなら」という言葉で会議を終えました。

これまでの事前学習、ビデオレターでシリアのことを勉強していた波多江小学校の生徒も、アーラーフ小学校の生徒も、シリア・日本がより一層身近に感じられたようで、いつか直接会いたいなあ、という感想が多く寄せられました。

福井先生、シリアの環境教育隊員の思いにより、この会議に参加された生徒が、日本とシリアについての理解を深め、環境問題についても関心を高める機会となりました。

この会議をきっかけに波多江小学校とアーラーフ小学校の交流が深まればよいですね。



*1 教師海外研修 国際理解教育および開発教育に興味のある学校の先生を対象に、約10日間ほど開発途上国で研修をおこなうプログラムです。4月下旬～5月下旬にかけて平成20年度研修の募集を行います。詳しくはJICA九州ホームページをご覧ください。
<http://www.jica.go.jp/kyushu/enterprise/kaihatsu/kaigaikenshu/index.html>

*2 JICA-Net 国際協力機構(JICA)が推進する遠隔技術協力事業です。テレビ会議・マルチメディア教材・インターネットなど、さまざまな情報通信技術を活用してJICAの技術協力事業を補完する、新しい形の国際協力です。

マローエレレイ（こんにちは）！

青年海外協力隊の日本語教師としてトンガに派遣される筒井慎之助といいます。3月下旬から派遣される予定です。そして2年間の日本語教師としての活動が始まります。その間、トンガのこと、協力隊のことをみなさんにお伝えできればと思っています。これから2年間、お付き合いの程よろしくお祈りします！

さて、私は現在、長野県駒ヶ根市にあるJICA駒ヶ根訓練所にて、65日間におよぶ訓練の真っ只中です。訓練内容は、ほとんどが語学研修となっています。私はトンガに行くので、トンガの公用語である英語を毎日勉強しています。駒ヶ根訓練所では、英語の他にスペイン語、フランス語、シンハラ語、ネパール語、ベンガル語の語学研修が行われています。また、語学以外にも、国際協力に関する講義が幅広く行われています。非～常に内容の濃い毎日を送っています。

仕事から出会いへ、そして冬の駒ヶ根から南の島へ

それでは、今回は第一回目ということで、私がなぜ協力隊に参加しようと思ったのかについてお話ししたいと思います。これを読んでいらっしゃる皆さんにも少なくないと思うのですが、応募する前の私は青年海外協力隊のことは知っているが「知っているだけ」の人でした。協力隊？ああ、あのアフリカに行って井戸を掘っている人たちでしょ？てなもんです。そんな私にも転機が訪れたのでした。

私は2005年4月から2007年11月まで北九州市八幡東区にあるJICA九州でフロント員として働いていました。JICA九州には、JICA事業の一環で開発途上国から日本に技術を学びに来た外国人（研修員と呼ばれます）が多く宿泊しています。フロント員は仕事柄、研修員と接する機会が多いので、勤務中にいろんな国の話を聞くことができました（仕事をさぼっていたわけではないですよ）。その中で、研修員がよく話してくれたのが、現地で活躍している協力隊員のことでした。研修員は口をそろえて、協力隊員がどれだけ自分の国のためにがんばってくれているのかを話してくれました。そのような環境で働いていましたので、協力隊に対する関心も日に日に強くなり、いよいよ青年海外協力隊の募集要項を手にする日がやってきたのです。募集要項には私の知らない協力隊に関する情報がたくさん載っていました。そして、そのときに、青年海外協力隊は井戸堀りだけでなく、他にも様々な職種があるのだということを知りました（お恥ずかしい限りです）。募集要項を読んだときに、職種の中に以前から興味があった日本語教師を見つけたのがすべての始まりでした。それから日本語教師として協力隊に参加したいと思うようになり、仕事をしながら日本語教師の資格を取りました。そして2007年春募集への応募に至ったわけです。

今考えると、協力隊に参加したいと思い立ってから合格するまでに、約2年間かかったこととなります。これが長いのか短いのかは分かりませんが、この2年間は、何をすることも協力隊に参加することを念頭においたに2年間でした。なので、合格したときは本当にうれしかったです。

とうことで、今回は私がなぜ協力隊に参加しようと思ったのかについて書きました。読み返すと、全く面白みのない文章を書いてしまったということに私自身も気付くわけですが、次回にもう少し面白いことが書けぞと誓いつつ、今回の報告を終わりたいと思います。それでは、みなさん、ノフォア（さよなら）！

「不定期連載シリーズ つつつんトンガへ行く！」第二回はいつになるかわかりませんが、乞うご期待！

不定期連載シリーズ

つつつん トンガへ行く！

彼の名は筒井慎之助、九州国際センターで“つつつん”と呼ばれた男です。この春、故あってトンガへ向かいます



青年海外協力隊訓練所のある長野県駒ヶ根の風景です。撮影は筒井さんをお願いしているのでご本人が写ることは滅多にありません。九州国際センター・フロントの元同僚の方々にお話をうかがうと、筒井さんは「お地藏様に似ている」とのこと。

青年海外協力隊・シニア海外ボランティア説明会開催！

平成20年度春募集に向けた体験談&説明会が4月9日アクロス福岡を皮切りに約一か月間、九州各地で行われます。詳しくはJICA九州ホームページをご覧ください。

青年海外協力隊http://www.jica.go.jp/kyushu/enterprise/volunteer/setsumei/schedule_jocv.html

シニア海外ボランティア:http://www.jica.go.jp/kyushu/enterprise/volunteer/setsumei/schedule_sv.html



世界も、自分も、
変えるシゴト。

募集中

[応募期間]

4/8 ▶ 5/23

人生のたいせつな2年間。きっと世界のために。きっとあなたのために。

青年海外協力隊 **シニア海外ボランティア**

説明会情報
詳しい情報

<<<<<<< ホームページでお近くの会場・日程をチェックしましょう! >>>>>>>

WEBで参加できる「**バーチャル説明会&体験談**」も開催!

www.jica.go.jp

JICA ボランティア

検索



全国各地で開催中! 「体験談 & 説明会」

参加無料

予約不要

入退場自由

青年海外協力隊

シニア海外ボランティア

福岡

- 福岡 4/9 (水) 18:30 アクロス福岡
- 4/18 (金) 18:30 アクロス福岡
- 4/24 (木) 18:30 アクロス福岡
- 久留米 4/12 (土) 14:00 えーるピア久留米
- 北九州 4/19 (土) 14:00 北九州市立男女共同参画センター"ムーブ"
- 4/22 (火) 18:30 北九州市立男女共同参画センター"ムーブ"
- 5/10 (土) 14:00 JICA 九州

熊本

- 熊本 4/16 (水) 18:30 熊本市国際交流会館
- 4/26 (土) 14:00 熊本市国際交流会館

宮崎

- 宮崎 4/13 (日) 14:00 宮崎市民プラザ
- 4/23 (水) 18:30 宮崎市民プラザ

鹿児島

- 鹿児島 4/16 (水) 18:30 鹿児島市勤労者交流センター
- 4/24 (木) 18:30 鹿児島市勤労者交流センター
- 5/10 (土) 14:00 かがしま県民交流センター
- 鹿屋 4/19 (土) 14:00 鹿屋市市民交流センター(リナシティかのや)

福岡

- 福岡 4/9 (水) 18:30 アクロス福岡
- 4/25 (金) 18:30 アクロス福岡
- 北九州 4/12 (土) 14:00 北九州市立男女共同参画センター"ムーブ"
- 4/22 (火) 18:30 北九州市立男女共同参画センター"ムーブ"
- 5/10 (土) 14:00 JICA 九州

熊本

- 熊本 4/16 (水) 18:30 熊本市国際交流会館

宮崎

- 宮崎 4/23 (水) 18:30 宮崎市民プラザ

鹿児島

- 鹿児島 4/17 (木) 18:30 鹿児島市勤労者交流センター

お問合せ・資料請求

03-3406-9900 093-671-8349

JICAボランティア募集選考窓口

JICA九州

青年海外協力隊・シニア海外ボランティアに興味がある方は、是非「体験談&説明会」にご参加ください。

独立行政法人 国際協力機構



世界も、自分も、
変えるシゴト。

募集中
[応募期間]
4/8▶5/23

人生のたいせつな2年間。きっと世界のために。きっとあなたのために。

😊青年海外協力隊 😊シニア海外ボランティア

説明会情報
詳しい情報

<<<<<<< ホームページでお近くの会場・日程をチェックしましょう! >>>>>>>

WEBで参加できる「バーチャル説明会&体験談」も開催!

www.jica.go.jp

JICA ボランティア

検索



全国各地で開催中! 「体験談 & 説明会」

参加無料 予約不要 入退場自由

青年海外協力隊

福岡	福岡	4/9(水) 18:30	アクロス福岡
		4/18(金) 18:30	アクロス福岡
		4/24(木) 18:30	アクロス福岡
	久留米	4/12(土) 14:00	えーるピア久留米
	北九州	4/19(土) 14:00	北九州市立男女共同参画センター"ムーブ"
		4/22(火) 18:30	北九州市立男女共同参画センター"ムーブ"
	5/10(土) 14:00	JICA九州	
佐賀	佐賀	4/10(木) 18:30	アバンセ
		4/20(日) 14:00	アバンセ
長崎	佐世保	4/12(土) 14:00	アルカス SASEBO
	長崎	4/15(火) 18:30	長崎ブリックホール
		4/27(日) 14:00	長崎ブリックホール
大分	大分	4/11(金) 18:30	コンパルホール
		4/26(土) 14:00	OASIS ひろば 21

シニア海外ボランティア

福岡	福岡	4/9(水) 18:30	アクロス福岡
		4/25(金) 18:30	アクロス福岡
	北九州	4/12(土) 14:00	北九州市立男女共同参画センター"ムーブ"
		4/22(火) 18:30	北九州市立男女共同参画センター"ムーブ"
		5/10(土) 14:00	JICA九州
	佐賀	佐賀	4/10(木) 18:30
長崎	長崎	4/15(火) 18:30	長崎ブリックホール
大分	大分	4/11(金) 18:30	コンパルホール

お問合せ・資料請求 **03-3406-9900 093-671-8349**
JICAボランティア募集選考窓口 JICA九州

青年海外協力隊・シニア海外ボランティアに興味がある方は、是非「体験談&説明会」にご参加ください。
独立行政法人 国際協力機構



インドやスリランカからやってきた研修員の方々からいただいたゾウの置物です。ゾウと縁の深い国ならではの土産品なのでしょう。JICA九州ではこのような民芸品や人形、国際協力に関わる写真などの貸出を行っております。詳しくはjicakic-lib@jica.go.jpまで。

■ アジアの省エネルギーを考える

下の写真は、インドやスリランカなどアジア各国から研修員をお迎えして、北九州市八幡東区のJICA九州で行われている「アジア地域省エネルギー診断技術」研修の様子です。この研修ではアジア地域の政府や工場から技術者の方々をお招きしてエネルギーに関する基礎理論から計測機器の使用法やデータの解析法に関する講義、さらに実際の工場での実地研修などが行われます。北九州国際技術協力協会(KITA)のご協力のもと実施されています。



2008年3月号通巻1号 編集・発行/JICA九州広報委員会 平成20年3月1日発行(毎月一回発行)お問合せはJICA九州総務チームjicakic-lib@jica.go.jp 093-671-6311まで。本誌記事・写真の無断転載を禁じます。

よりよい明日を、世界の人々と。
独立行政法人 国際協力機構

JICA
ジャイカ